

湘南藤沢学会「研究助成金」成果報告書
国際学会 Pattern Languages of Programs conference 2018(PLoP2018)におけ
る「A Style Language for Family Lifestyle」の研究発表

総合政策学部 3 年 鈴木峻平

1. 活動日程・学会名・場所

活動日程：2018 年 10 月 23 日～2018 年 10 月 26 日

学会名：Pattern Languages of Programs conference 2018 (以下、PLoP2018)

場所：University of Oregon Portland (70 NW Couch St. Portland, OR 97209)

2. 発表論文

タイトル：A Style Language for Family Lifestyle

著者：Ryohei Suzuki, Kazuki Toba, Nobuko Yoshida, Seiko Miyakawa, Takashi Iba

3. 活動の目的

今回の活動の目的は、米国オレゴン州で開催された PLoP2018 にて論文「A Style Language for Family Lifestyle」を Writers' Workshop 形式で発表し、私たちの考案した「スタイル・ランゲージ」という概念自体や作成方法、「家族を育むスタイル・ランゲージ」の内容について議論し、フィードバックを得ることである。また、PLoP2018 では、本研究の成果である「家族を育むスタイル・ランゲージ」の英語版を用いたワークショップ(Style Writing Workshop)を実施し、実際のスタイル・ランゲージに触れてもらい、海外の方が「家族を育むスタイル・ランゲージ」を見たときに抱く印象や海外特有のスタイルについて調査を行う。

4. 活動の成果

Writers' Workshop や Style Writing Workshop では、スタイル・ランゲージの概念そのものやそれを用いた我々の取り組みについて、概ね肯定的な意見をいただくことができた。その一方で、これから改善すべき課題も複数見つかった。

「A Style Language for Family Lifestyle」の Writers' Workshop では、主にスタイル・ランゲージの作成方法や内容についての議論がなされた。例えば、家族を育むスタイル・ランゲージは 130 人のインタビュー調査をもとに作成されたものであるが、そのインタビュー対象者は大学生が中心だった。この点について、「世代によって家族のあり方は大きく異な

るので、世代が限定的になってしまっているのは良くないのではないか」という指摘を受けた。スタイル・ランゲージの内容については、「このスタイル名では内容が想像できない」というフィードバックを受けることもできた。例えば、近所の同級生家族と旅行に行く習慣を表した”**Brothers from Another Mother**”は、このスタイル名では異父兄弟と誤解されてしまうのではないか、という指摘を受けた。

また、**Style Writing Workshop** を通じて、今回私たちが作成したスタイル・ランゲージは、極めて日本的であることを痛感した。当初は、ある程度海外の方にも共感できるようなスタイルがあるだろうと想定していたが、共感よりもスタイルの違いへの気づきが多い印象を受けた。



Writers' Workshopの様子



Style Writing Workshopの様子

5. 今後の発展

今回発表した論文は、いただいたコメントを参考にして2019年1月までに修正を行い、再度提出する。提出した論文は、ACMに掲載される予定である。また、家族を育むスタイル・ランゲージをより良くしていくためには、スタイル名の再検討や文章のリバイズはもちろんのこと、さらなるインタビュー調査も検討する必要があると考える。

また、今回の **Writers' Workshop** と **Style Writing Workshop** では、海外の家族のスタイルについて複数知ることができた。今後は、日本のみならず海外までターゲットを広げたスタイル・ランゲージを作成していきたい。

6. 謝辞

本研究成果を国際学会で発表するにあたり、金銭面において多大なご支援をいただいた湘南藤沢学会様には、心より感謝申し上げます。